英・日・中のことわざで見る文化の相異①
――― 互いに似た表現を中心に ―――

陸　　君

はじめに

「清水の舞台から飛び下りる」や「社会の窓が開いている」という日本での言い方を中国語ではどのように言うだろうか？

これは数年前にあるテレビ局から研究室に掛かって来た電話での質問であった。当時、即座に答えることが躊躇されたのでとても悔しかった。また日本語・英語・中国語には様々なことわざが存在しており、現代の国際社会において人々の経済や文化交流に欠かせない重要な役割を占めていることもつくづく感じており、これがことわざに関する研究を始めるきっかけになった。当然ながら数え切れないことわざの中で、何を切り口として着手するのかが難題であり、ことわざが古くて説教めいたものというイメージもあり、時代とともに新しいことわざもいろいろと生まれているので、なかなかすぐには研究に手をつけることは出来なかった。そこで、三年前に本学人間学研究所の共同研究で「日・中・英の諺による異文化の比較研究」として、現代社会における異文化を理解し易く、若い人でも親しみやすいものを中心に展開して行くことを目標に研究をスタートさせた。三カ国でよく使われていることわざを対象に、文化の相異を比較するのは、今までにない研究である。まさに人類の豊富な言葉の大海の中から一滴の水を拾って分析するように、面白い研究となる反面、難しい一面もある。

日本のことわざ研究の第一人者である奥津文夫によると、「世界のほとんどの国にことわざは存在する。いずれの国においても、民族の知恵、習慣慣習、価値観などをもって各世代に受け継がれ、それぞれの国の貴重な文化遺産として残されているのである」。また、「ことわざは各国民の発想や論理、あるいはユーモア感覚などを基礎にした巧みな表現形式をもつものであり」[注1]、言語や文化対照研究のよいデータでもある。確かに、英語にあることわざは、日本語や中国語とほぼ同じであるものや類似しているもの、また類似しないものも数多くある。長い年月の文化・経済交流などを経て、一つの文化圏から別の文化圏へと翻訳されたことわざも沢山生まれて来た。

今回は研究成果の第一歩として、日・中・英のことわざの中で、日常生活によく使われる表現に焦点を当て、生活の知恵や慣習または価値観を比較する為、よく似たことわざを中心にノートとしてまとめておく。

第一節、ことわざの定義と分類

①ことわざとは何か？

ことわざは四字熟語、成語、名言とは違って、“Proverbs are the wisdom of the streets.”これは庶民の知恵と人類の結晶であり、文化の濃縮された一滴でもある。三カ国の辞書でProverbの定義を調べてみると、つぎのような解釈になっている：

英語辞書：A short popular saying, usually of unknown and ancient origin, that expresses effectively some commonplace truth or useful thought. (*Random House of the English Language*)

普通その起源は古くてわからず、ある平凡な真理や有益な思想を効果的に表す、短くて広く人々に使われる言葉。（――奥村訳により）

京都文教大学 臨床心理学部臨床心理学科 准教授

日本語辞書：古くから人々にいいならわされたことば、教訓、諷刺などの意を寓した短句や秀句。「蒔かぬ種ははえぬ」の類。（*―広辞苑*）
中国語辞書：谚语是流行在民间的通俗语句、是一种口耳相传的传世常言。谚语具有鲜明的经验性、思想性和通俗生动的艺术完美性。（*漢語諺語詞典、商务印书馆国际有限公司*）

この三つの辞書でそれぞれの言語や表現は違うが、共通点は「短い、軽妙な」、「広く人々に使われている」、と「平凡な真理や有益な教訓」ということである。例えば、英語の“More haste, less speed”、日本語の「転ばぬ先の杖」、中国語で「只要功夫深、铁棒磨成针」などは、みんな簡潔で覚え易いし、普遍な真理や教訓をも含む名言であり、どの国の人でも気楽に使える表現である。因みに、「ことわざには３つのS、つまりshortness（簡潔さ）とsense（内容）とSalt（ぴりっとした味付け）が必要だ。」と言う人もいる。

しかし、ことわざの中に四字熟語や成語、または名言や慣用句が沢山混じっているために、区別しがたい場合もある。例えば聖書の“Blessed are the poor in spirit.”やシェイクスピアの“To be, or not to be: that's the question.”類の言葉はほとんどの諺辞書に収められているし、Idiomatic（慣用句らしい）である“a skeleton in the cupboard”（戸棚の中の骸骨、家庭のスキャンダル）なども多くの辞書に載っている。日本語や中国語でも同じことわざとするかどうかは判断しがたい場合もすくなくない。例えば、「親不孝」、「蛇足」や「一刻千金」、「良薬苦口」がそうである。これらの分類の難しさを避ける為に、本研究は纏まった一つの文になる短句や秀句を中心に分析を試みたい。

第二節　ことわざの出所と内容

英語のことわざは大体「名人言葉、聖書、シェイクスピア、イソップ物語故事など、または出典不明なものからなるもの」と奥村文夫氏がまとめている。[注2]中国や日本の諺は論語、詩経、漢詩、古典小説、そして古川柳や出典不明なもの、または外国語から訳されたものからなるのがほとんどである。言語や出典が違っていても、内容として風土や気候、文化や慣習または宗教や思想との関連という表現が似ているところが興味深い。以下は同じ例えを違うもので表す各国のことわざを比較し、３つの分野ごとにまとめた。

a）食べ物に関連することわざの異文化：

英語のことわざには西洋的な食材*sauce, bread, soup, milk*などと関連するものが多い代わり、日・中には水、米、味噌、胡椒、胡麻などと関係する表現がよくある。このことを幾つかの例で見ていくが、まずは英語での表現を記し、日・中、双方に似た意味の表現がある場合は英語のことわざに続けて併記しておく。

英語のことわざの場合：

Hunger is the best sauce.
「ひもじい時にまずい物なし」
空腹不挑食。

Too many cooks spoil the broth.
「船頭多くして船山に登る」
鸡多不下蛋。

It's no use crying for spilt milk.
「覆水盆に返えず」
覆水难收。

Half a loaf is better than no bread.
（半分のパンでも全然ないよりまし）
知足常楽。

You cannot make an omelet without breaking eggs.
目的を達するには何か犠牲を払わねばならない。

You can't make a silk purse out of a sow's ear.
「鉛は刀となすべからず」
（豚の耳で絹の財布は作れない。悪い材料はよいものは作れぬ、人の本性は変えられぬ）
朽木不可雕·山河易改、人性难易。

日・中のことわざの場合は一般的に食材がよく登場する：

「手前味噌」自分の作った味噌をこれはうまいと自分で褒めること：「自画自賛」
英：Every cook commends his own sauce.
中：黄婆卖瓜,自卖自夸。

「米の飯より思し召し」・「食った餅より心持ち」ごちそうしてくれたりするのも嬉しい

がそれよりもそれをしてくれた気持ちの方がずっとうれしい。

「棚からボタ餅」・「濡れ手で粟」何の苦労もしないで、楽々と大儲けをする。

英：Make easy money (easy pickings)

中：鱼翁得利

「秋なすび嫁に食わすな」秋茄子が特別美味しいので、憎たらしい嫁には食わせるな。または、秋茄子は種が少ないので縁起をかついで子供が出来なくなるといけないので、嫁には食わせるなという説もある。

捡了芝麻丢了西瓜。胡麻を拾い上げて西瓜をなくした。「一文惜しみの百知らず」

巧妇难为无米之炊。いかなる器用な婦人・嫁といえども米なくして炊事することができない。「ない袖は振れぬ」

偷鸡不着蚀把米。鶏は盗めず一握りの米を損する。「あぶはちとらず」

生米做成熟饭。米が煮えてご飯になった・出来てしまった事は後で悔やんでしかたない。

以上の例で見えるのは、社会的、文化的、地理的背景により、伝えようとしている内容が大体同じであっても、諺の中で使われている題材や比喩に違いがある。これはまさに国民の生活を反映し、国民性が現れていることわざ異文化の特徴の一つとも言えるだろう。

b）気候や風土に生じたことわざの異文化：

ことわざはその地の気候や風土とは密接な関係があるので、気候的なrain, cloud, shine, stormや地名がよく含まれている。しかしイギリスの季節変化はあまりにも激しくて、よい天気も少ないので、一部のイギリス人は自分の国には天気はあるが、気候はないと言っている。[注3]

1. Feeling under the weather.
体の具合がよくない。（語源：船に乗ったら急に悪天気になった。船酔いして気分が悪くなる）

2. It is raining cats and dogs.
どしゃぶりしている。
中：下着傾盆大雨。

3. Cast a cloud on the family.
暗い影を落とす。

4. Every cloud has a silver lining.
どんな雲も銀の裏地がついている。「苦は楽の種」

5. Come rain or come shine.
どんなことがあっても。

英語に風土関係のことわざもいろいろあるが、Romaに纏わる表現は特に多い。日・中ことわざにも訳された表現で使われている：

6. Roma was not built in a day.
「ローマは一日にして成らず」
罗马并非一日建成

7. When in Rome, do as the Romans do.
「郷に入っては郷に従う」
入乡随俗。

8. All road leads to Roma.
「すべての道はローマに通ず」
条条大路通罗马。

一方、日・中には名所の清水寺や黄河、长城、または仏教文化と関わる寺や僧、天や地獄、または井戸や水などがよくことわざの中に現れる。

9.「清水の舞台から飛び下りる」（思い切った決断を下す・必死な覚悟で事を行う）

10.「住めば都」（どんな所でも住み慣れてしまえば、住みやすい都と同じように住み心地がよくなる）
英：There is no place like home・East, west, home is best.

11.「寺の隣に鬼が棲む」（善人と悪人とが入り混じり同居している）

12.「雨だれ石をうがつ」（小さい力でも辛抱強く努力すればいつか成功する）
英：Little strokes fell great oaks.
中：滴水穿石

13. 不到黄河心不死。（とことんまでやらねば気が済まない。固い決意を表す）

14. 不到长城非好汉。（高い目標をめざして最後まで頑張らないのは男ではない。）

15. 井水不犯河水。（あちらはあちら、こちらはこちら。互いに干渉しないこと）

16. 三十年河东、三十年河西。「時ゆけば幸は移ろう」

（人の世の栄枯盛衰や運命の変転を喩える）

このように、諺のもう一つ特徴は、人々に強い印象を与えたり、記憶しやすくする為に、それぞれの国の風土や気候と密接し、その国の生活環境や住み条件を反映する技巧が凝らされている側面も興味深い。

c）動物と関わることわざの異文化：

英語のことわざにも日・中の中でも、猫、犬、鳥、馬、虎などがよく登場する。これは世界の何処でも生活に関わる動物が親しい存在であることの証拠である。イギリス人は特に大の動物愛好家で、ほとんどの家には何らかのペットが家族の一員として大切にされている。

1. When the cat's away, the mice will play.
「鬼のいぬ間に洗濯」
中：山中无老虎、猴子称大王。
2. A cat has nine lives.
「猫に九生あり」
猫有九命。
3. Every dog is a lion at home.（どんな犬も自分の家ではライオンになれる・誰だって内弁慶はできる）
4. Love me, love my dog.
「愛屋鳥に及ぶ」
爱屋及乌。
5. Don't throw pearls before swine.
（豚に真珠）「猫に小判・馬の耳に念仏」
中：对牛弹琴・东风入马耳
6. 「猫は虎の心を知らず」（つまらない人間は大物の心の中は分からない。）
7. 「猫にかつおぶし」（少しも油断ができない）
8. 「猫ばばを決め込む」（悪いことをしてそ知らぬふりをする）
9. 「魚心あれば水心」（相手が親しい気持ちを示せば、こちらもその気になる）
10. 「犬も歩けば棒に当たる」（古：出しゃばるとかえって災いにあうこともある。現代：進んで何かをしていれば幸運にであうこともある）
11. 夫妇本是同林鸟。（夫婦はしょせん他人の寄り添い）
12. 人为财死,鸟为食亡。（人は財のために命を失い、鳥は食うもののために失う）
「鳥はえさのために身を滅ぼす・慾は身を滅ぼす」
13. 不入虎穴、焉得虎子。
「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
14. 狗嘴里吐不出象牙。（犬の口から象牙は吐き出せない・下品な人間はどうせ上品なことは言えない。）
15. 人急造反, 狗急跳墙。（人はせっぱつまれば謀反をなし、犬はせっぱつまれば塀を飛び越える。
16. 咬人的狗不露齿。（人を噛む犬は牙をむかない。悪人は人に気づかれずに害を加える。）

以上の1-5の英語ことわざで見ると、猫や犬は可愛い動物として捉えている。日本の表現では中間的な捉え方となる、しかし中国の諺においての犬（狗）は、ほぼよくない例えとして使われている。この違いは中国語の中でほぼ野良犬を指しているからであり、昔は現代のように犬をペットとして飼うという習慣がなかったような文化で考えれば、理解しやすいと思う。

d）宗教と関係あることわざの異文化：

英語にはキリスト教などによく現れるGod, heavenまたはhellに関わることわざが多いのに対し、日・中は仏教文化と関連ある仏や天、そして寺や僧、または鬼も登場する表現が多い。例えば、

Man proposes, God disposes.（人間は計画し、神が処理する）
日：「人事を尽くして天命を待つ」
中：「谋事在人、成事在天」
Error is human, forgive divine.（過ちは人の常、許すは神の業）
God [Heaven] helps those who help themselves.（天は自ら助くる者を助く）
The road to hell is paved with good intentions.（地獄への道は善意で敷かれている）
「知らぬが仏」（知らなければ怒ることもないかけで、仏のように穏やかにいられる）
「天に唾す」（悪事身に返る、お天道様身に石）

「天は二物を与えず」（悪いところばかりの人間はいない）
「鬼の念仏」（残忍冷酷なものが、さも情け深そうなことを言ったり、殊勝げにふるまったりすること）
「平时不烧香、急来抱佛脚」「苦しい時の神頼み」
「神不知、鬼不覚」（だれにも知られない）
「躱了和尚躱不得寺」（坊主は逃げても寺まで逃げることはない：当事者は一時隠れるが、事件は消えることがない）

このように、西洋文化と関わる宗教や文化、そして東洋的なものも同じ、諺の形成過程に欠かせない一部になり、人生の生き方や知恵、または警告や習俗規範をことわざに通して民衆に伝え普及したものである。

第三節、ことわざとの共通性と相違点

ことわざの表現形式はいろいろあるが、まとめて見ると簡潔・脚韻・比喩/隠喩・逆説・省略などである。例えば英語のNo pain, no gain. 日本語の「苦は楽の種」 中国語の「苦尽甜来」；また、隠喩の一例は；日本語の「社会の窓が開いている」に対して、中国語では「天窗开着」(雨戸が開いている)、英語では “Zip is down, or Fly is down” との言い方になる。比喩：Every dog has his day.（どんな犬も盛りがある：誰にでも一生に一度は幸運が訪れる）、逆説：More haste, less speed. 省略：First come, first serve.などなど。次は三カ国語のことわざに違う喩えでも意味がほぼ同じである表現を一部まとめる：

①日・中・英のことわざに意味がほぼ同じであるもの（３０例）

1．A bad workman always blames his tools.
「弘法筆を選ばず」
善书者不择笔。（自己无能、且怨天忧人。）

2．A drowning man will catch at a straw.
「溺れる者は藁をもつかむ」
落水者抢捞救命稻草。

3．Art is long and life is short.
「芸術は長く、人生は短く・少年老い易く学成り難し」
少年易老学难成.

4．Bad news travels fast.
「悪事千里を走る」
好事不出门,坏事传千里。

5．Birds of a feather flock together.
「類は友を呼ぶ」
物以类聚,人以群分。

6．Blood is thicker than water.
「血は水より濃い」
血浓于水

7．Don’t bite the hand that feeds you.
「飼い犬に手を噛まれる・恩を仇で返す」
恩将仇报・狗咬吕洞宾、不识好人心。

8．Early to bed, early to rise makes a man healthy, wealthy and wise.
「早寝早起き、病知らず」
早睡早起身心健康.

9．Money talks.
「金は天下の回りもの」
有钱能使鬼推磨。

10. It is no use crying over spilt milk.
「覆水盆に返らず」
覆水难收・ 破镜难圆。

11. Kill two birds with one stone.
「一石二鳥」
一举两得・一箭双雕。

12. Like father, like son.
「この親にしてこの子あり」
有其父必有其子。

13. Love is blind.
「恋は盲目」
情人眼里出西施。

14. More haste, less speed.
「急いては事を仕損ずる・急がば回れ」
欲速则不达.

15. Nothing venture, nothing gain.
「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
不入虎穴焉得虎子

16. Once bitter, twice shy.
「羹に懲りて膾を吹く」
一朝被蛇咬,十年怕草绳。

17. Out of sight, out of mind
「去る者は日々に疎し」
眼不见、心不念・人一走、茶就凉。

18. Practice makes perfect.
「習うより慣れよ」
熟能生巧。（中国では語学を勉強時によく学生に言うこと）

19. Speech is silver, silence golden.
「雄弁は銀、沈黙は金・言わぬは言うにまさる」
雄辩为银、沉默为金・少说为妙。

20. Seeing is believing.
「百聞は一見に如かず」
百闻不如一见・耳听为虚,眼见为实。

21. Still water runs deep.
「音を立てぬ川は深い・空き樽は音が高い」
静水深流.

22. Time and tide wait for no man.
「歳月人を待たず」
岁月不等人・光阴不再来。

23. Time flies
「光陰矢の如し」
光阴如箭. 时光似水。

24. Time is money
「時は金なり」
一寸光阴一寸金・时间就是金钱。

25. The early bird catches the worm
「早起きは三文の徳」
一日之计在于晨・一年之计在于春。

26. There is no smoke without fire.
「火のない所に煙は立たぬ」
无风不起浪。

27. Two heads are better than one.
「三人寄れば文殊の知恵」
三人之行必有我师·三个臭皮匠赛过诸葛亮。

28. Walls have ears
「壁に耳あり、障子に目あり」
墙有缝、壁有耳.

29. Where there is a will, there is a way.
「精神一到何事か成らざらん」
有志者事竟成。

30. Where ignorance is bliss, ‘tis folly to be wise.
「知らぬが仏」
难得糊涂・聪明难、糊涂更难。

しかし、日・中にある、英語にない諺もよくある。例えば：

１．「清水の舞台から飛び下りる」
中：「不到黄河心不死・不成功便成仁」
（思い切った決断を下す・必死な覚悟で事を行う）

２．「無い袖は振れぬ」
中：「巧妇难为无米之炊」
（いかなる器用な主婦といえども米なくして炊事することはできない）

３．「苦しい時の神頼み」
中：「临时抱佛脚」
（いつもはお線香をあげないのに、何かあると慌てて仏の足に抱きつく）

４．「一人ではけんかにならない」
中：「一只碗不响、两只碗叮当」

また、英・中にある、日本語に見つかられないことわざも幾つかがある。勿論日本語の訳はあるので、以下の例を挙げられる：

Two is company, but three is none.（訳：二人ならば良い連れ、３人なら仲間割れ）

一个和尚挑水吃,两个和尚扛水吃,三个和尚没水吃。

解説：これは中国とアメリカ人の似た性格が見られる例であると思う。日本人は集団やグループ精神が強いので、このようなことわざを見つけられないのではないかと思われる。

It's never too late to mend.（訳：行いを改めるに遅すぎることはない）

改过不晚・知错就改、为时不晚。

Many hands make the work light.（訳：多くの手が仕事を軽くする。）「餓鬼も人数」

人多力量大・人多智广。

A friend in need is a friend indeed.（訳：まさかの時の友こそ真の友。）

日久见人心、路遥知马力·患难出挚友。

Enough is as good as feast.（訳：十分はご馳走も同然。何事も過度はいけない）

知足常乐。

終わりに

日本のことわざ「清水の舞台から飛び下りる」に相当する中国のことわざは「不到黄河心不死」ということから、それぞれの国にあった地理や文化が深く関わってくることが伺えよう。日本人のだれもが「清水の舞台」は京都の清水寺のことで、中国人も同様黄河や長江は二つの母になる大河で、男女老若を問わず、誰でも知っている。しかし、国の地理的な場所が違っても、それぞれの根底にある考え方は似ている。清水寺の舞台の高さと黄河の水流の激しさは両方とも危険な場所で、一つのことをやるためにいくら危険でも死ぬ覚悟で臨むという決心は変わらない。今回は、三カ国のことわざを僅か一部分選んで異文化として比較してみたが、はっきり見えた共通点は、１）相手に対して、また自分自身に対しての慰めの言葉から発達したものが多い。「金は天下の回り物」は金のない人たちへの慰め、「苦は楽の種」などは不幸に遭った人たちへの慰めの言葉だけではなく、一面の真理も語っているところに、諺としての生命力が保たれているのである。２）日常的な生活や社会的な慣習から発展してきたことわざは、動物、天気、食べ物または宗教文化のさまざまな表現で表す、民衆に知恵を伝え、文化遺産として今日まで残されている。３）三カ国の諺の類似点で観察すると、言語や地理や風習が違っても、考え方は似ている。英語で”Great minds think alike.” 中国語では「英雄所見略同」と言い、これこそまさにその通りである。いかなる年齢層の人たちにとっても貴重な教訓や激励を与えてくれるものであり、また時代を超えて真実や真理を伝えるものである。まさにことわざは人類の知恵の結晶であると言えるだろう。

今回のミニ研究は、日・中・英比較文化の始まりであり、これから更にデータを収集し、ことわざとその背景文化を深く研究していくことが必要であると強く思っている。

注1　奥津文夫、2000『日英ことわざ比較文化』はしがきpiii

注2　同上、p13~15

注3　James Kirkup, Everyday English Idioms, 1992　p36

主な参考文献

日本語文献

奥津文夫『日英ことわざ比較文化』（大修館書店 2000）。

郡司利男『故事ことわざ辞典』(A Dictionary of Proverbs and Sayings)（学習研究社、1988）。

『広辞苑』（第６版）(岩波書店，2008)。

千野明日香『中国のことわざ』（大修館書店、2010）。

村瀬学『ことわざの力』（洋泉社、1997）。

英語文献

James Kirkup, Everyday English Idioms　田中章夫・木宮直仁注釈『イディオムの世界』（成美堂、1992）。

Wilfred Funk, Litt. D. Word Origins (Wings Book, 1950)

中国語文献
胡光遠『英語諺語・名言選粋』（中国世界図書出版公司、1998）
程孟輝『汉语谚语辞典』（中国商务印书馆国际有限公司、2005）